

【日常交通への対応】

モビリティ・マネジメント実施事業

マイカー通勤者に対する事業所を通じたワンショットTFPの実施について

目次

1. 背景・目的		
2. 事業者選定	1

3. 実施内容		
4. スケジュール		
5. 予算と効果	2

1. 背景・目的

奈良中心市街地への通勤目的の流入トリップは、自動車の分担率が高くなっており、朝夕の通勤、帰宅ピーク時間帯に渋滞が発生している。また、平成23年2月に実施した事業者アンケートでは、公共交通の利便性が高い地域においても、通勤時の移動手段として鉄道・バス利用の分担率が低い事業所が存在していることが明らかになった。

このような状況に対し、MM(モビリティ・マネジメント)の一種である、ワンショットTFP(トラベル・フィードバック・プログラム)を実施し、自発的な行動変容を促すMMの効果・課題を検証する。また、得られた課題より来年度以降の平日交通対策の方針を決定する。

2. 事業者選定

平成23年3月に実施した事業者アンケートより、マイカー通勤削減意向が高く、利用転換が可能な公共交通が整備されている事業所(41事業所、民間企業、官公庁・学校)を対象とする。

		公共交通の利用環境		
		鉄道圏内 バス停圏内 96事業所 (2,103人)	鉄道圏外 バス停圏内 298事業所 (7,597人)	鉄道圏外 バス停圏外 27事業所 (1,380人)
マイカー 通勤削減 意向	削減意向あり 113事業所 (3,213人)	41事業所 (1,112人)	60事業所 (1,705人)	12事業所 (396人)
	削減意向なし 163事業所 (3,993人)	54事業所 (990人)	98事業所 (2,345人)	11事業所 (658人)
	未回答 145事業所 (3,876人)	1事業所 (3人)	140事業所 (3,547人)	4事業所 (326人)

※鉄道駅圏(500m以内)、バス停圏(300m以内)
奈良市役所(鉄道圏外、バス停圏内)についても、MMを実施予定。

3. 実施内容

1) コミュニケーションアンケート

対象となる41事業所に対して、自動車利用者が多い事業所を優先に、事務局による調査依頼を実施する。予算の範囲内において同意を得られた事業所に対し、コミュニケーションアンケートを窓口担当宛に送付し、その後モニターに手渡していただく。配付資料のうち、バス停案内等を記載する事実情報パンフに関しては、様式は各社で統一する。掲載情報は、各社の立地状況に応じて作成する。

作成資料は下記の通りとする。

●挨拶状 ●動機付け情報 ●事実情報パンフ ●調査票(行動プラン票)など

2) 事後調査

コミュニケーションアンケートに回答があったモニターに対し、事後調査を実施する。

●挨拶状 ●調査票(行動プラン票) など

3) 効果検証

回収した調査票に記載されたアンケート結果から、本事業の効果・課題及び今後の平日交通対策についてとりまとめる。

4) 報告書作成

MMの実施結果と今後の課題や展開方針について報告書にとりまとめる。

4. スケジュール

- 9月 : 委託事業者選定
- 10月 : ツール・資料の作成
- 11月 : コミュニケーションアンケート
- 12月 : 事後調査
- 1月～2月 : 効果検証
- 3月 : 報告書作成

5. 予算と効果

○予算: 300万円を上限

○効果: 朝夕に発生している通勤・帰宅時に発生している渋滞の緩和を図るため、ワンショットTFPの効果を検証する。
また、今後の平日交通対策の取組方針を検討する。